

震災から3年、 住まいエンベロップ・デザインを 改めて考えるシンポジウム IN 仙台

(公社)日本建築士会連合会 CPD認定プログラム (4単位)

日時

平成25年10月10日 (木)

13:20~17:00 (開場13:00~)

場所

フォレスト仙台

(第2フォレストホール)

東日本大震災から3年が過ぎ、地域再生のためにも暮らしの再建と住まいの再建が急務となっています。形に見える復興の段階で、改めて住まいの再建に求められる「良質さ」とは何か。自宅再建者の限りある費用負担の中で、住まいの何に優先的に投入するべきか。

これらの重要な命題に対して、震災復興住宅供給の最前線で活躍される方々から、今後の住まいの目指すべき方向、そして、住まいをかたち創るエンベロップ・デザインのあり方について提言頂くことを目的として、下記によりシンポジウムを開催致すこととなりました。

13:20 ~ 13:25

シンポジウム代表挨拶

坂本 雄三 (独立行政法人建築研究所理事長)

13:25 ~ 13:45

基調講演 「復興住宅における環境設計のあり方」

講師：吉野 博 (住まいと環境 東北フォーラム 理事長)

13:45 ~ 14:15

講演 1 「住まいの省エネルギーと居住環境の質の両立を目指して
—震災から改めて考える住まいの方向とは—」

講師：鈴木 大隆 (北海道立総合研究機構 建築研究本部
北方建築総合研究所 環境科学部長)

14:15 ~ 14:45

講演 2 「東北の復興と住宅のエネルギー対策」

講師：三浦 秀一 (東北芸術工科大学 准教授)

14:45 ~ 15:15

講演 3 「住宅・まちづくりにおける復興の現状と課題」

講師：林 俊行 (復興庁 統括官付参事官)

休憩 (15:15~15:25)

15:25 ~ 16:55

パネルディスカッション

~住まいの再建においてエンベロップ・デザインが果たす役割とは~

コーディネーター：鈴木 大隆 (前掲)

パネラー：林 俊行 (前掲)

三浦 秀一 (前掲)

日野 節夫 (ヒノケン株式会社 代表取締役社長)

佐々木 一彦 (住田住宅産業株式会社 代表取締役社長)

木原 幹夫 (旭硝子株式会社 ガラスカンパニー 日本・アジア事業本部
ビルディング事業部 マーケティンググループ 主幹)

16:55 ~ 17:00

閉会挨拶 関 成孝 塩ビ工業・環境協会専務理事

参加費

無料

(定員:120名)

協賛：板硝子協会、(一社)健康・省エネ住宅を推進する国民会議、(一社)住宅生産団体連合会、樹脂サッシ工業会、
住まいと環境 東北フォーラム、断熱建材協議会、東京良質エコリフォームクラブ、(一社)日本建材・住宅設備産業協会、
(一社)日本サッシ協会、(一社)日本住宅リフォーム産業協会(JERCO) (50音順)
後援：国土交通省、経済産業省、復興庁、宮城県、(独)建築研究所、(独)住宅金融支援機構、(独)都市再生機構、(一社)日本建築学会、
(公社)日本建築士会連合会
主催：塩ビ工業・環境協会